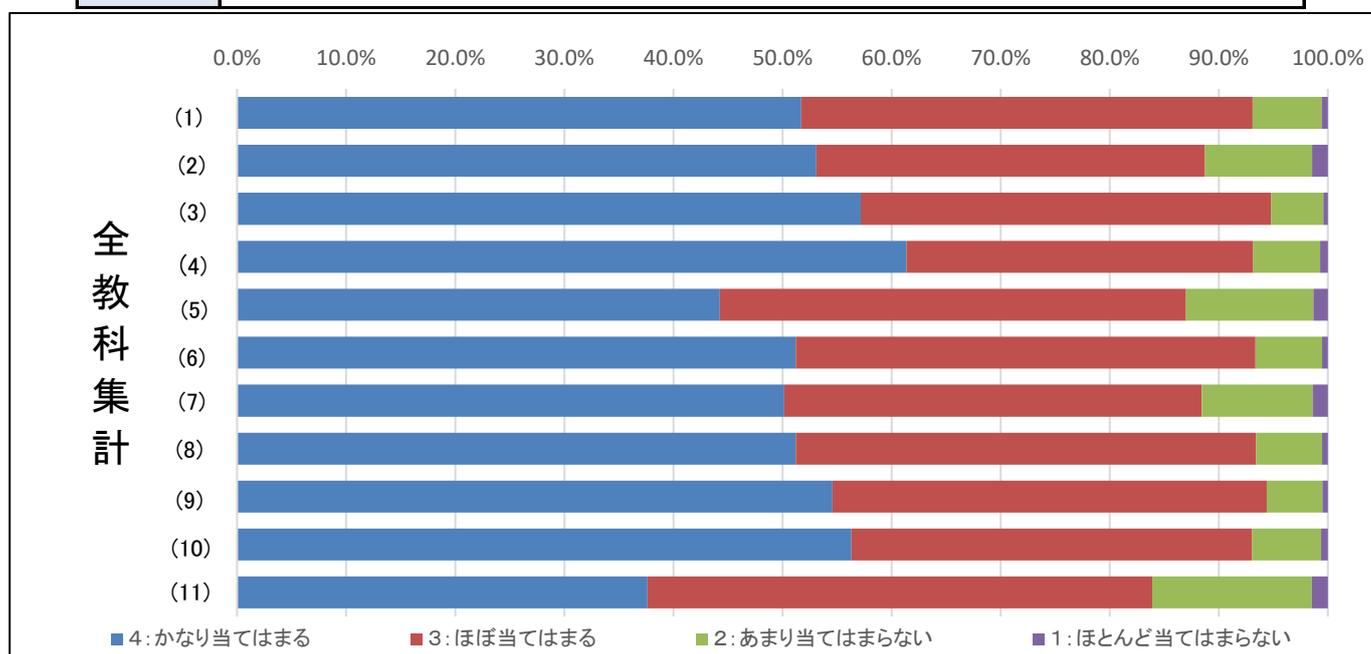
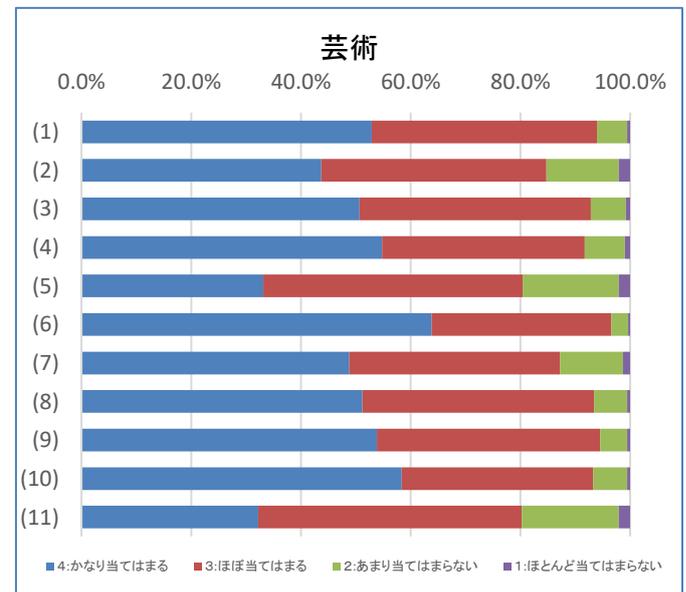
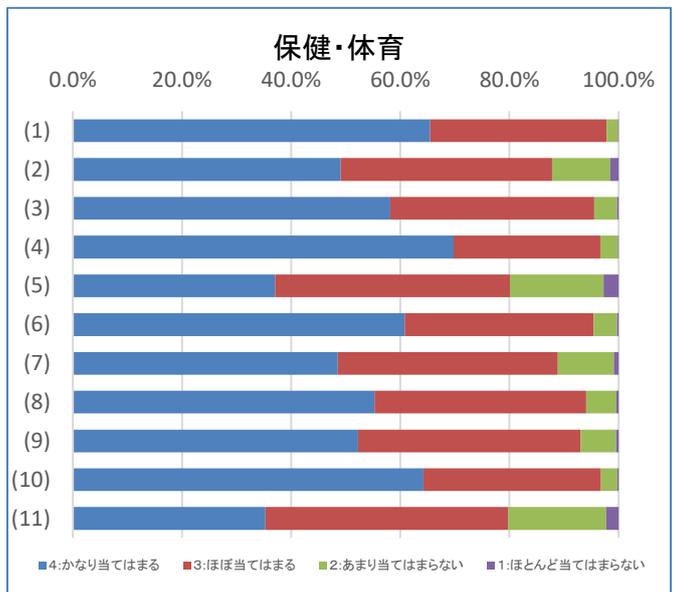
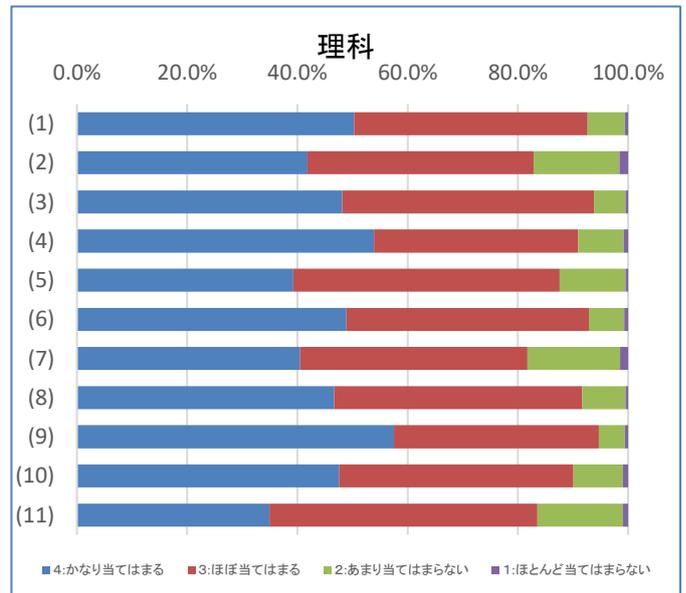
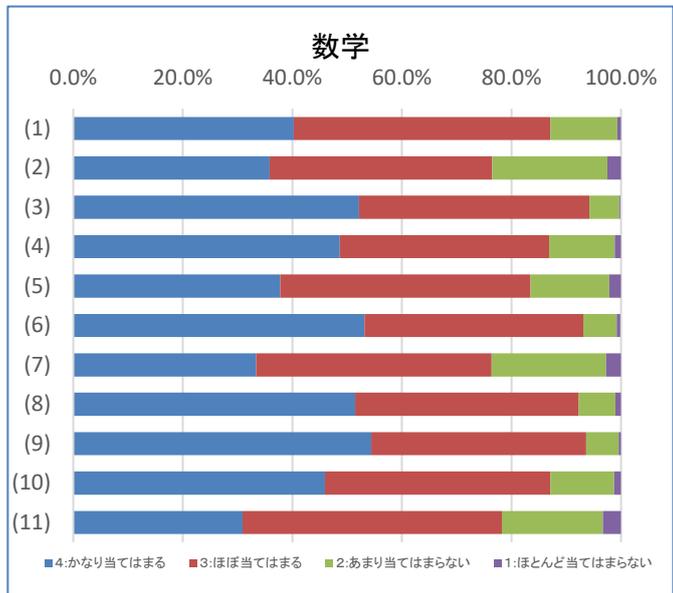
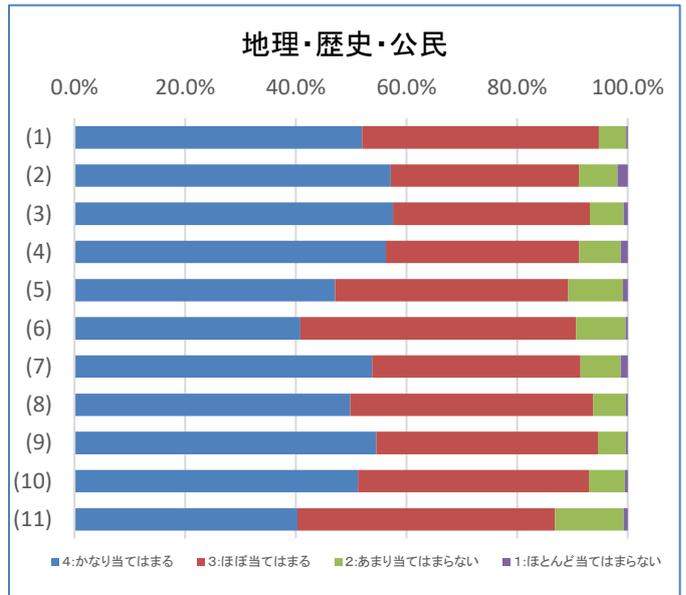
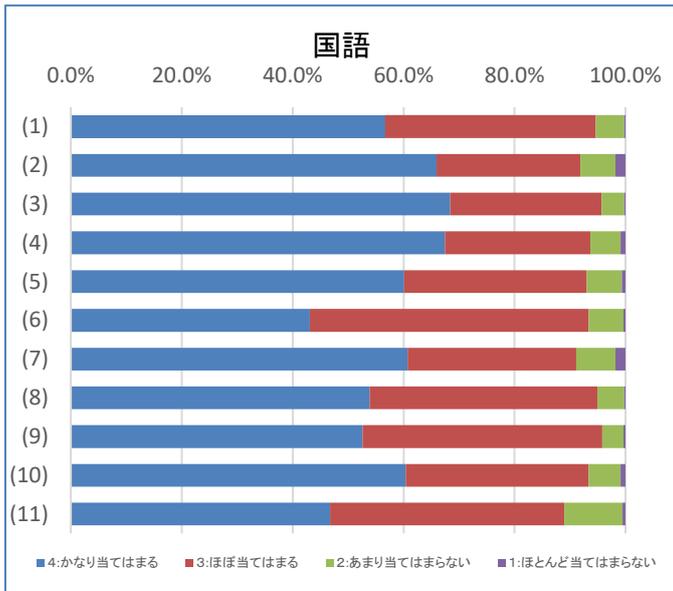


令和4年度 第1回「生徒による授業評価」集計結果一覧 (令和4年6月21～7月6日実施)

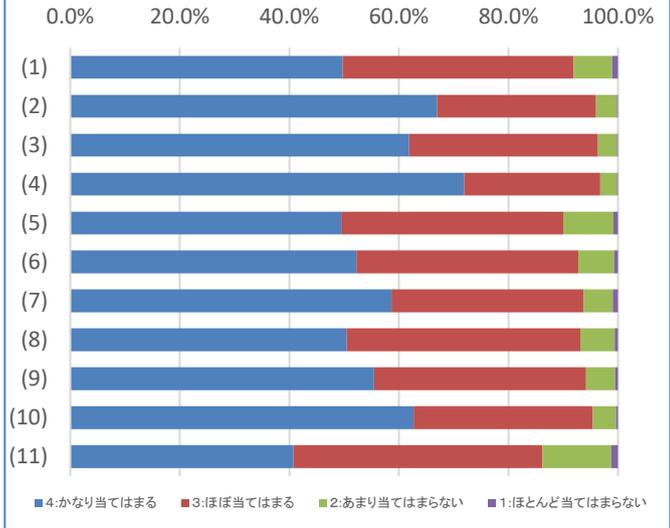
大項目	小項目	
授業の在り方について	(1)	毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。
	(2)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。
	(3)	単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある。
	(4)	主体的・協働的に課題を解決する場面がある。
	(5)	批判的・論理的に思考し、表現する学習活動がある。
学習の状況について	(6)	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。
	(7)	他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えをができた。
	(8)	授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた。
	(9)	授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた。
	(10)	主体的・協働的に課題を解決に取り組むことができた。
	(11)	批判的・論理的に思考し、表現することができた。

評価について	各授業内にて記名式で行い、「4:かなり当てはまる、3:ほぼ当てはまる、2:あまり当てはまらない、1:ほとんど当てはまらない」の4段階で評価する。
--------	--

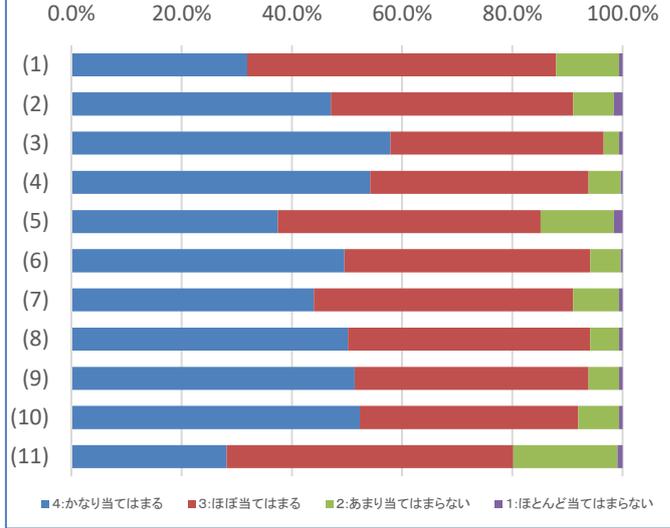




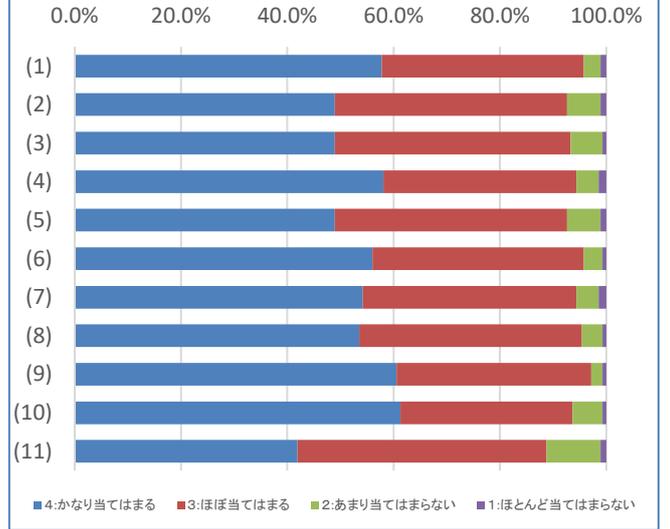
外国語・国際



家庭・看護



情報



令和4年度 第1回「生徒による授業評価」教科検討事項

教科	授業評価分析結果・課題点	授業改善に向けての具体的取組み
国語	<ul style="list-style-type: none"> 協働的に課題を解決する場面が多く、他者の考えを知る機会がある。 多くの科目において、論理的に思考させ、表現させる活動が行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒同士の交流活動の際、活動の目的や意図を指導者が意識して行い、形式のみの指導にならないように配慮する。 多くの教材を扱うことにより、生徒に多角的に考えるための機会を与える。
地理 歴史 公民	<ul style="list-style-type: none"> 課題発見力・課題解決力の育成を目指した手段や方法が教科・科目・単元にあっていない場合がある。 全ての科目で4と3の割合が高いため概ね満足度は高い。特に政治経済は全ての項目での評価が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業見学・教科会などを通して、課題発見・課題解決のための教授法について共有を行う。 教科・科目・単元に合った主体的活動を取り入れる。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 論理的思考の実感・授業内での発見についての評価が高い。 協働的な課題解決の場面が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き論理的思考力の育成と気づきを意識した授業展開を行う。 グループワークを行うことが難しくともペアワークや生徒の発表等の機会を積極的に取り入れ生徒対生徒での学びを取り入れる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高く(4)(3)を選んだ生徒がほとんどである。 実験やグループワークをしたいという要望が強かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科会で効果のあった教授法について紹介しあう。 感染状況を踏まえ、生徒が体験し考えることができる活動の機会を増やしていく。
保健 体育	<ul style="list-style-type: none"> 保健について満足度は概ね高い。 体育についても満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容に関連したより深い内容に取り組みことで生徒の興味関心をより高めることができ、思考する機会も増える。ICTの活用など授業で取り組んでいることを教科内で互いに情報共有しながら授業をよりよくしていく。 感染対策を行いながら授業を進めている中、ペアワークやグループワークも工夫
芸術	<p>音楽 演劇</p> <ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 学習のねらいをより明確に提示したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りをする時間を設ける。
	<p>美術 工芸</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね満足度は高い。 (4)の協働的に課題を解決する場面があるの評価が低め。 科目、課題によってはわずかだが自己評価の低い生徒も見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業見学を日常的に行い改善点を話し合う。 課題の中に協働的な学習内容を充実させる。 生徒個々の意欲を引き出すため、対話を重視し丁寧な指導に努める。
外国語 国際	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションⅡⅢⅣ おおむね良好ではあるが、授業で学習したことと課題の解決方法を考えたり、既習事項と関連付けていくことに改善が必要。論理的な思考を促す活動表現を充実させる必要がある。項目11(論理的に思考し、表現することが出来た)で4(かなり当てはまる)と答えた回答がほかの項目と比べて少なかった。批判的思考力を高める課題設定ができていない。 英語表現ⅡⅢ(1-2) おおむね良好である。項目5(5)論理的に思考し、表現する学習活動がある。)及び項目11(論理的に思考し、表現することが出来た)に関しては、4(かなり当てはまる)もしくは3(ほぼ当てはまる)と答えた回答がほかの項目と比べて少なかった。文法や表現の知識と定着に時間を必要とするため、英語での文法等の仕組みについて論理的に考える時間があるにしても、まとまりのある文章を論理的に読んだり、書いたりして発展させる時間を十分に取れていないことが、アンケート結果につながっていると考えられる。項目1、2、3、4、5、9については66%以上の生徒が4(かなり当てはまる)と回答しており、残りの約30%の生徒も3(ほぼ当てはまる)と回答している。これらの点に関しては狙いがほぼ達成できていると考えられる。対して、評価の低かった項目は項目6である。回答者全体の48%程度しか4を選択していない。英語表現Ⅱ(2)では表現の内訳として、英作文等による表現活動が主体となっている。会話形式の表現活動と異なり、授業の中で身に付いたことを実感させることが比較的難しい科目であることがここに影響していると考えられる。項目11が若干低迷していることも同じ要素が原因であるともいえる。 第2外国語 おおむね良好 ほぼ全員が初心者のため、アンケートの設問が当てはまらないことが多々あるように感じる。全教科、全科目の科目の特性を考慮せず同じスケールで測ることは無理があるのではないかと感じる。ただし、何人かの学生を除いては、ほぼ初心者であるため、設問が当てはまらないことがあります。後半になると、文章をつくりはなせるようになるので、もう少しは良くなると思います。学び始めたばかりの第二外国語にはうまくあてはまらない問いもあり、答えるほうも、高い評価にすべきか低い評価にすべきか、迷った回答になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちが深く考えることができ、やりがいを感じられるアクティビティ(ディベートなど)を増やす。英文を読むときやディスカッションをするときに多角的な観点から思考し、英語で相手に伝えられるようにサポートを行う。生徒に考えさせ、その概念を他の既習事項と関連付けたり、課題解決の糸口になる道筋を示す機会を増やす。単元毎の評価項目の設定と場面毎に技能の設定と単元精選を行う。 (4)(5)(11)は、満足度が高い一方、2を付けた生徒がほかの項目より若干多い。科目の特性もあると思うが論理的思考力を高める活動を後期は積極的に取り入れてはどうか。手立てとして、身近なことから社会問題に対する考えを英語で表現する活動として、自由英作文(エッセイ・ライティング)を用いた表現テストを学期に2度実施することを始めた。今後はそのテストと連携させ、論理的な文章を書くための、論理の示し方や構成の組み立て方等を授業内で共有し、実践を積み重ねていきたい。文法問題や英作文を行う際に、その技術や知識が身につけていることを実感させる手立てを入れていく。具体例としては、英作文をペア音読、交換させて感想を書かせるなどのフェーズを入れ伝える英語力が育まれていることを実感させる試みを行ってはどうか。また、学習した文法事項に関して、入試問題等の類題等を提示し、反復学習により定着を図ることで学習したことをできた実感を持たせる。同時に他者の考えも知ることができるため、項目7などもより強化することができる。加えて、英文を読み読解力を身に付けていくという活動が、文法や英作文にも生きてくことを理解させるために、新聞記事を配布し授業時間内に読ませるなどさせていく。 恥ずかしがりな生徒とアクティブな生徒の差を埋めるために席替えを行う。コロナ対策・対応しつつ、グループ発表・議論の場を設ける。会話、音読だけでなく、フランス語を書く練習を増やしたい。フランス語検定を受ける子がいるので教科書を早めに終わらせる。できる限り、ペアワークができるようにすすめると同時に長文などをとり入れる。長文を読み、発表することで、自分の考えや他人の考えなどが少しはわかるようになるのでは。聴解の部分を取り入れる。教科書が早く終わるそうなので、他の教材などで長文、聴解などを行う。生徒相互での会話している実感が持てるように、コロナ対策・対応しつつペアワークの方法を工夫する。文法的な詳しい説明が欲しい生徒と、楽しく会話を繰り返し理解したい生徒と、多様なので、様々な方法を取り混ぜて力を伸ばしていきたい。評価の低いごく少数の生徒に対しては、必要に応じて個別対応する。
家庭 看護	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高い。 主体的な取り組みと多角的視点を引き出せるよう改善したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科も含めた意見交換を行う。 コロナ禍での体験的授業について教科会等で話し合う。
情報	<ul style="list-style-type: none"> 満足度は概ね高く(4)(3)を選んだ生徒がほとんどである。 協働的な活動をコロナと機器の兼ね合いを見ながら行っているが、今後はもう少し増やしていきたい。 満足度は概ね高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後は(4)を選択する生徒を増やせるよう授業をより研究して進めていく。 (2)(1)を選んだ生徒もいるので0になるように、授業研究や生徒にわかりやすい授業を心掛ける。 機器を使いながら協働的な活動をどのように行えるか研究していく。
舞台 芸術	<ul style="list-style-type: none"> 実技の授業では、論理的思考の意識を持ちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師の授業も含めて常に授業公開をし、意見交換等を行う。 論理的・批判的思考を働かせて意見交換に取り組むよう、声掛けを工夫する。